



CSR経営の強化で 期待に応え信頼される企業を実現

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
当社における第15期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 内田 成明

ダイキョーニシカワの 「目指す姿」をお聞かせください。

近年サステナビリティ(持続可能性)に対する意識が高まっています。当社は経営理念で「人・社会・地球を大切にする企業を実現します」と謳っており、カーボンニュートラルの取り組みとして樹脂製品で軽量化に貢献するだけでなく、例えば樹脂製品の原料は現在石油由来のナフサが一般的ですが、セルロースナノファイバーなどの植物由来の材料の研究や環境にやさしい工法の研究に力を入れています。

また、樹脂にはまだ多くの可能性があります。今後も研究を重ね、ますます需要が高まると予想されるEV車向けの製品開発にも注力してまいります。

持続可能な社会の実現に向けた事業活動の推進については、利益の確保との両立を目指して行っています。昨今の目まぐるしい外部環境の変化に素早く対応し、CSR経営の強化と強靱な経営体質の構築を目指して、2023年度を最終年度とする中期経営計画を推進しています。5つの戦略を柱としており、SDGsと直結した様々な方策を立て、日々堅実に取り組んでいます。

また、当社では企業の成長の礎となる人材育成に重点を置いています。「ものづくり」を生業とする企業として、納期を遵守し要求品

質を満たした製品をお客様にお届けして満足していただくことは当たり前ですが、そのさらに一歩先の「感動を創造する企業」を目指し、付加価値を生み出す柔軟な発想力や、それを形にできる確かな技術力を培う教育、失敗を恐れず果敢にチャレンジできる職場環境づくりに努めています。性別や国籍、年齢、学歴等に関係なく多様性を尊重し、個性や資質を活かした自由な発想で、能力を存分に発揮してイキイキと働ける職場、ポジティブでクリエイティブな企業風土の醸成を図っています。

第15期の業績の総括と、 今後の事業の展望をお願いします。

第15期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)は、世界的な半導体供給不足、新型コロナウイルス感染症の影響によるアジア地域からの自動車部品調達支障等により、顧客各社の生産台数が大幅に減少したことに加え、会計基準の変更もあり、減収減益となりました。しかしながら、Honda新型「CIVIC」ハッチバック向けに当社の樹脂テールゲートが採用されるなど、販路は着実に拡大しており、戦略が次々と実を結び成果を出しつつあります。

米国新工場も本格稼働となり、当社がこれまでに蓄積した生産プロセスのノウハウを結集した結果、ロスなく順調なスタートを切るこ

とができました。本年度(第16期)の第4四半期での黒字化実現に向け鋭意取り組んでいきます。

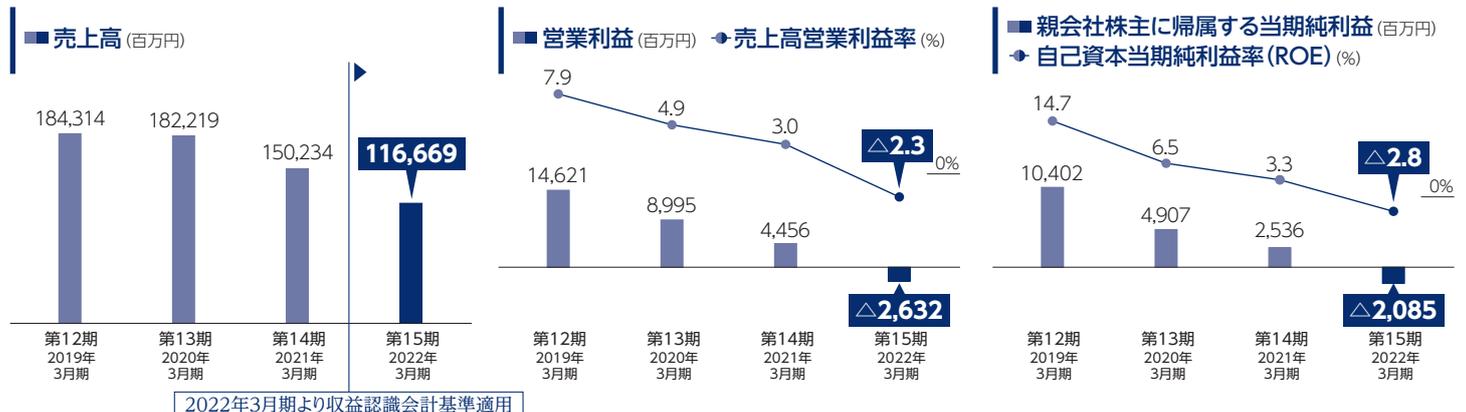
第16期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の業績につきましては、先行きが不透明であることから未定としておりますが、中期経営計画に掲げた目標達成に向け、今後も全力で邁進いたします。

株主の皆さまに メッセージをお願いします。

当社は一見不可能と思われることにも不撓不屈の精神で挑み続けてきました。そのDNAは脈々と受け継がれ、次々と独創的な製品を世に送り出し、新たな価値を生み出しています。当社は挑戦を続けます。これからも、人にも社会にも地球にもやさしい「ものづくり」で、皆さまのお役に立てる企業、そしてガバナンスがしっかりと効いた、皆さまの信頼にお応えする企業であり続けることをお約束いたします。

まだまだ成長途中ではあるがゆえに、その分伸び代は大きい企業です。皆さまの期待に応える結果を出せるよう尽力してまいりますので、引き続き倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務ハイライト



- 半導体の供給不足、自動車部品の調達支障等による顧客各社の生産台数減少に加え、会計基準変更による影響等により減収となりました。(「収益認識会計基準」の適用により、第15期の売上高は従来の基準と比較して29,795百万円減少。)
- 減産影響や急激な生産変動に伴う稼働ロス等に加え、米国新工場の操業準備費用の影響もあり、営業損失を計上。

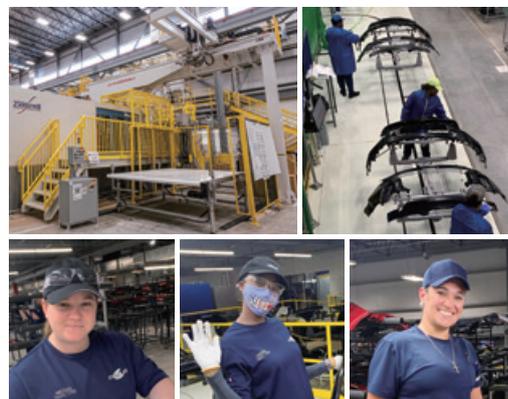
米国新工場 本格的に稼働を開始



当社が100%出資する連結対象子会社であるDaikyoNishikawa USA Inc. (以下「DNUS」) で、いよいよ本格的な稼働がスタートしました。2021年9月にトヨタ向けのバンパーの生産を開始しておりますが、2022年1月にはマツダ向けの生産も始まり、本年度(第16期)中に予定しているフル生産に向けての準備を進めています。

DNUSは「グローバル戦略拠点」と位置づけており、当社がこれまでに行ってきたものづくり技術を集大成したともいえる工場です。安定した収益の確保と継続的な成長、日本と同等の品質での商品供給、現地の材料・人で運営できる拠点を目指し、生産プロセスのロスを徹底的に排除し、高効率フレキシブル生産を追求しています。

環境にも配慮した工場で、塗装には水性塗料を使用しています。



[Q&Aで解説]

教えて!
Keyword

水性塗料を使用した塗装について

Q1 水性塗料と溶剤型塗料の違いを教えてください。

顔料や樹脂系塗料を塗布しやすくするために、揮発性有機溶剤で溶かした塗料が溶剤型塗料で、水に均一に分散させた塗料が水性塗料です。水性塗料は揮発性有機溶剤を使用しないため、環境にやさしいなどの利点があるものの、顔料や樹脂系塗料は水と相性が悪く水に溶けにくいなどといった扱いづらさがあります。

Q2 なぜ水性塗料で塗装することになったのですか？

VOC(揮発性有機化合物)による大気汚染や健康被害を防ぐため、水性塗料で塗装を行うことになりました。米国においては、VOC削減に向けた活動として1990年代から水性塗料への置き換えが進められています。

Q3 VOCがなぜ大気汚染や健康被害の原因となるのですか？

VOCは、ベンゼンやトルエンなど約200種類あり、車の塗装、化学製品の乾燥といった生産工程から排出されます。これらの蒸

発ガスを直接吸引すれば人体に有害であり、大気中に放出されれば光化学反応により2次粒子を生成し、浮遊粒子状物質(SPM)やオキシダントに変化して大気汚染の要因となります。

Q4 水性塗料での塗装はどんな点が難しいのですか？

水は有機溶剤に比べ温まりにくく冷めにくい特性があります。また、蒸発しにくく湿度変化の影響が大きいことから、水の蒸発速度の制御を行っています。乾燥にも注意が必要で、仕上がりのムラや気泡の抜け跡などによるへこみが出ないように工夫しています。



環境に
やさしい
ものづくり

DNUS 本格稼働への道のり

～ロスのない安心安全な職場づくり～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



DNUS建設発表から約3年。グループ丸となって「ものづくり」を追求し、準備を進めてきました。順風満帆とはいかず、いくつもの予期せぬ困難に立ち向かい、逆境を克服し、DNUSは歩み始めました。



理想的なローンチに近づけるため日本国内で十全の準備

DNUSでの稼働開始にあたり、ロスを最小限にとどめる立ち上げを目指し、まずは過去の品質不具合事例を解析した結果から得られた知見等を基に金型を作成しました。また、IoT^{*1}の技術を活用した日本での良品条件を現地で再現させ、同等の品質を達成することができました。様々な要件をシミュレーション検証し、その結果を工法に落とし込んで、日本での模擬工程で事前に検証、評価と確認を行ったことで、トラブルのない早期の垂直立ち上げ^{**2}に繋がりました。

量産開始前に渡米し、DNUSスタッフの品質検査指導にあたったのですが、厳密な日本と同じ検査基準に戸惑いながらも、楽しそうに業務に取り組んでいた姿が印象に残っています。

※1 IoT…Internet of Thingsの略。「モノのインターネット」と訳される。

※2 垂直立ち上げ…段階的に生産を拡大していくのではなく、一気にフル生産体制に近い状態での立ち上げを行うこと。



技術本部 初期管理部
第2初期管理グループ

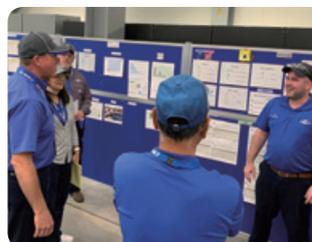
多田 昇平



苦難を共に乗り越えチームの団結力をさらに強固に

DNUSは2019年8月に着工し、2021年4月に仮住まいのオフィスから移転し、本格的に稼働を開始しました。途中、天候不順や新型コロナウイルス感染症などの多くの苦難を乗り越える必要がありましたが、これが逆に私たちの団結力をさらに高める結果となったと考えます。その甲斐もあり、2021年9月にはトヨタ向け製品を、2022年1月にマツダ向け製品をそれぞれ予定どおり生産開始することができました。現在は2交代制生産の準備を進めており、今年後半にはフル生産に移行する予定です。

「Team ONE」が私たちのキーワードで、取引先や全てのサプライヤーが文字どおりワン・チームで活動しています。一体感をもってDNUSで働き、Mazda Toyota Manufacturing, U.S.A., Inc. (以下MTMUS)に私たちの矜持がやどる製品を供給するべく、毎日の一瞬一瞬を大事にしています。



Plant Manager

Doug Vanata



水性塗料を使用した塗装でクリーンで安全な職場環境に

MTMUSに隣接するDNUSは、環境フレンドリーなサプライヤーでもあり、その一例が水性塗料を使用した自動車部品です。一般的な自動車部品の塗装は4工程あるすべての塗装工程に揮発性溶剤を使用しますが、私たちはそのうちの3工程に水性塗装工程を導入することに成功しました。これにより有害ガスの発生を95%削減し、クリーンな空気を維持することができるのと同時に、水性塗料を用いることで従業員の健康への悪影響を防ぐことができています。私たちの工場は環境的にも安全で、かつ省エネルギーな設備を完備しており、非常に清潔な作業環境が整っています。

DNUSは楽しい職場で、新しい技術や製品づくりのたゆみない挑戦を日々楽しんでいきます。



General Manager of
Engineering

Norm Norcross

Pick up
News!

2030年を見据えた革新的な提案を発表

～車は単なる「移動空間」から、心地良い「居住空間」へ～



「100年に一度の大変革期」と言われている自動車業界において、2016年以降「CASE*」というキーワードの下、電動化や自動運転が急速に進んでいます。これまで以上に部品点数の削減や軽量化が求められるようになり、車内はより快適に過ごせる空間へと変貌を遂げるであろうと予想されています。

当社の技術でいかに「心地良さ」を提供できるかという研究開発テーマの成果を形にしたものが、このインストルメントパネルです。運転席と助手席の間のコンソールに手触りの良いセンシング機能を搭載し、映像透過パネルを見ながら操作を行ったり、地図を表示したりといった、光透過技術を応用した技術や、シームレスのスリッ

トルーバー、車内360°サラウンドで音楽が楽しめるシームレススピーカーや空調システム等の技術提案を織り込んだ、近未来を感じさせるコンセプトモデルです。

電動車や自動運転車は、車の構造や部品構成も変化するとされています。新しい時代に対応したインストルメントパネルの構造と役割を追求し、当社の技術の粋を集め、今までになかった革新的な提案を「人とくるまのテクノロジー展 2022」で発表しました。

*CASE…Connected(コネクテッド)、Autonomous(自動運転)、Shared & Services(カーシェアリングとサービス/シェアリングのみを指す場合もある)、Electric(電気自動車)の頭文字をとった造語。

地元で
発見!

棄てる? 使える? /

環境を意識した素材の研究も行っています



● 広島県の牡蠣殻

[サンプル]



● 岡山県のデニムの端材

[サンプル]



● もみ殻

[サンプル]



Q 環境を意識した素材研究のきっかけは?

SDGsに注目が集まり、環境に配慮した樹脂が求められる中、単に環境にやさしいだけではなく、見た目も魅力的な製品に高めたいと思ったことが開発のスタートでした。石油由来の樹脂をいかに減らせるかという観点から考えて、アップサイクル*にも着目し、広島県の牡蠣殻や、岡山県のデニムの端材など、通常は廃棄される素材を再利用することで、これまでにない新しい素材感や質感を持つ、環境にやさしい新製品の開発に挑戦しています。

*アップサイクル…捨てられるはずだった廃棄物や不用品に手を加え、付加価値を与えること。

Q 他にはどのような素材に挑戦しているのですか?

塗膜付きバンパーのリサイクルや、PVCスラッシュのリサイクルの研究も行っています。見た目にもわかりやすく魅力的に見える製品にするためにはどのようなデザインが良いか、チームでアイデアを出し合いながら検討を進めています。

Q 難しい点は、どんな点ですか?

材料レベルからの開発なので、材料の調達といった専門外の領域も含まれ、わからないことも多く壁に突き当たることもあります。他部門とも連携を取りながら、製品化に向け課題の解決にあたっています。

Q 廃棄の削減以外に環境に貢献できることがありますか?

塗装レスなので、CO₂削減に貢献できます。

R&D本部 第3研究開発部 デザイン開発グループ 美藤 亮



TOPICS 「人とくるまのテクノロジー展 2022 YOKOHAMA」に出展

2022年5月、パシフィック横浜でのリアル開催とオンライン展示会のハイブリッドで開催した「人とくるまのテクノロジー展 2022 YOKOHAMA」(主催 公益社団法人自動車技術会)に出展し、次世代インテリアコンセプトモデルをはじめとする当社の技術を紹介しました。3年ぶりとなるリアル開催は、5月25日～5月27日の3日間で延べ43,665名が来場され、当社のブースにも多くのお客様が足を運んで

くださり活況を呈しました。熱心にスタッフの説明に耳を傾け、活発な質問が相次ぐなど、高い関心が寄せられ、展示品に触って質感を確かめたり、操作性を体感していただきました。オンライン展示会は、5月25日～5月31日のサイトオープン期間中、当社のページには1,546名の方にご訪問いただき、動画の視聴等で当社の製品や研究開発品について知識を深めていただきました。



新任役員のご紹介 (2022年6月17日選任)

ガバナンスのさらなる強化に向け、2022年6月17日開催の「第15回定時株主総会」にて新任役員4名が承認され、取締役11名(内、社外取締役5名) 監査役3名(内、社外監査役2名)の新体制がスタートしました。



取締役専務執行役員
畑石 光生

このような大役に選任して頂き、大変身が引き締まる思いです。これからも日々努力精進してまいります。



社外取締役
弘中 武都

座右の銘は「至誠一貫」です。誠実な姿勢を貫いてまいります。



社外取締役
小畑 博文

好奇心を持ち、今を大切に未来志向で一步一步努力してまいります。



社外監査役
藤広 稔

物事を俯瞰的に捉え、「利他の心」を行動の原点とし、日々、努力をしていく所存です。



詳細は当社のホームページに掲載されている「IR情報」をご覧ください。

<http://www.daikyonishikawa.co.jp/jp/ir/index.html>

こちらのQRコードからもアクセス!



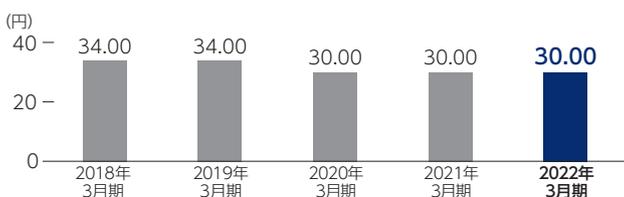
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

株主還元の基本方針

当社の配当政策は、株主の皆さまに対して安定的・継続的な配当を行うことを基本とし、業績、配当性向などを総合的に勘案して実施することとしております。

1株当たり配当金・配当性向

■ 1株当たり配当金



配当性向

年次	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
配当性向	19.3%	23.2%	43.3%	83.9%	—

株主優待のお知らせ

当社は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象とした株主優待制度を導入しております。

株主様が保有する保有期間に応じて、QUOカードを贈呈いたします。

こちらのQRコードからアクセス!



詳細につきましては、当社HPでご確認ください。

<http://www.daikyonishikawa.co.jp/jp/ir/memo.html>

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
剰余金の配当の基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同 事 務 所 取 扱 場 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777(平日9:00 ~ 17:00)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
電子公告	http://www.daikyonishikawa.co.jp/
公告掲載方法	但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

会社概要

(2022年3月31日現在)

社 名	ダイキョーニシカワ株式会社
本 社	広島県東広島市寺家産業団地5番1号
設 立	2007年4月1日
資 本 金	54億2,665万3,900円
従 業 員 数	5,482名(連結)

表紙について

合言葉は「Team ONE」～DNUS本格稼働開始～

DNUSは高効率フレキシブル生産を目指した工場です。

ロスを徹底的に排除するには、チームワークが不可欠です。

「Team ONE」を合言葉に、意志疎通と連携の取れた無駄のない動きで、スタッフは楽しみながら日々の業務に取り組んでいます。ハード面でもソフト面でもクリーンで動きやすい環境づくりに努めており、DNUSで働くプライドを持って、心一つに高い目標に向かって日夜精励しています。



ダイキョーニシカワ株式会社
TEL: 082-493-5610

